

## 200 題を越す発表、2011 年度日本獣医師会・獣医学術学会年次大会が札幌市で開催、盛会裏に終了

2011 年度日本獣医師会・獣医学術学会年次大会が 2 月 3～5 日の 3 日間、北海道獣医師会との共催により、札幌市の札幌コンベンションセンターで開催された。会場には全国から獣医師や獣医系大学の学生、動物看護職、動物薬品や資材関係者など 2 千名以上が参加したほか、一般市民を対象とした公開シンポジウムでは札幌市民を中心に道内各地からの参加者があり、年次大会は成功裏に終了した。

学会は 8 ブロックの会場で産業動物学会、小動物学会、公衆衛生学会が単独または共通で開催され、発表された演題は 200 題を越える。特別講演、教育講演、シンポジウムや一般研究発表や北海道に関する話題など多彩なプログラムがあり、連日好評であった。特に、ノーベル化学賞を受賞した鈴木章北海道大学名誉教授による市民公開特別講演「科学者にとって大切なこと」は市民の関心も高く大盛況だった。

文部科学省科学研究費助成事業で開催された「生産獣医療における国境なき感染症の流行の現況と対策に関する国際シンポジウム」は 3 日間にわたってヨーネ病や牛ウイルス性下痢ウイルス感染症に対する欧州、米国、日本のそれぞれの研究現状や対策が紹介された。また、市民公開シンポジウム「感染症のグローバル化対策 近隣諸国とどのように協力して対策を練るか」では近年、爆発的な感染拡大で注目される鳥インフルエンザと口蹄疫について日本と韓国の現状と課題が報告された。日本での口蹄疫の発生に対しては発症現場での被害農家や臨床獣医師の精神的ストレスの分析や癒しへの取り組みなど獣疫学の研究が注目された。

さらに市民公開シンポジウムとして「東日本大震災における動物の救護」では、福島県酪農協の鈴木真一獣医師が県酪協の大震災と原発事故での放射能汚染による被害と復興への対応の現状について報告した。また、生産現場での食の安全を担う「食の安全を守る獣医師 農場管理獣医師を知っていますか?」、「BSE に関するリスクコミュニケーション」や野生動物に関する話題として「北海道の生物多様性保全と野生管理」、「エゾシカの個体群管理および食肉利用と課題」にも地元市民を含めて多数の参加があった。

一方、日本獣医学会との合同シンポジウムでは繁殖率の低下に関する「胚の死滅による妊娠喪失」および「動物たちの匂いの世界の研究の最前線」が行われた。また、2011 年度獣医学術賞が発表され産業動物部門では 根室地区 NOSAI の加藤肇獣医師らの「ツーステップ・ワクチン・プログラムの牛ウイルス性下痢ウイルス 2 型に対する有用性評価」が奨励賞を受賞した。酪農家に多大な被

害を与える牛ウイルス性下痢ウイルス 2 型 (BVDV2) の弱毒性ワクチンは市販されておらず、BVDV2 の抗体を得ることは困難だった。加藤氏らの研究は BVDV2 型の不活化ワクチンを接種後に既存の BVDV2 型ワクチンを接種することで BVDV2 型への感染防御効果を向上させることが、今後の調査研究に寄与すると評価された。

また、獣医学術学会賞の「馬肉を原因食品とする食中毒病因物質の解明とその予防法」の埼玉県食肉衛生検査所の新井陽子獣医師らの発表も注目された。チルド馬肉の生食による原因不明の食中毒の原因菌の同定と原因を菌由来の毒素と同定し、馬肉を極低温に保存することで原因菌を死滅させて生馬肉喫食による食中毒防止を確認するなど公衆衛生上の重要な知見をもたらした研究が高く評価された。

なお、12 年度の年次大会は大阪市獣医師会との共催で大阪国際交流センター等において 13 年 2 月 9 日より 3 日間にわたって開催されることになった。